

学童期の顔症状と不眠を経てプールに入れるまで回復した小児アトピーの経過 (12 歳男児)

症例 ID：001-12-KK | 記録日：不明

1. 診断・治療前経過

小学 1 年の夏、肘や膝の関節に軽い湿疹があり、医療機関で外用薬を使用しました。その後、症状は少しずつ広がりました。小学 4 年頃には顔にも症状が出て、夜眠れず、学校に遅刻する状態となりました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	複数の皮膚科で外用薬を使用しましたが、製品名やステロイドの有無は不明です。
製品名	不明です。
強度	不明です。
使用期間	小学 1 年頃から松本医院受診までです。
中止時期	松本医院受診後は、それまでの外用治療から移行しました。
来院前／後	来院前に外用薬の使用歴があります。詳細は不明です。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
小学 1 年夏	発症	肘や膝の関節に湿疹が出て、外用治療を開始しました。
小学 4 年頃	悪化	症状が顔へ広がり、夜眠れず、学校に遅刻するようになりました。
その後	治療開始	長崎から大阪を受診し、遠距離で治療を開始しました。
治療初期	リバウンド期	強い症状が出る時期を経験しました。
開始後約 1 年	生活変化	皮膚状態が落ち着き、プールに入れるまで回復しました。

4. ピーク時期

ピークは、小学 4 年頃に顔へ症状が広がり、夜間の睡眠がとれず、学校への遅刻が続いた時期です。

5. 困りごと

- 夜間のかゆみで眠れず、学校生活に遅刻などの支障が出ました。
- 遠方から大阪まで受診し、その後も遠距離で治療を続ける必要がありました。
- 顔に症状が出て、家族の不安が大きくなりました。

6. 経過のまとめ

小学 4 年頃には顔症状と不眠により学校生活へ支障が出ていましたが、遠距離で治療を継続しました。

治療開始から約 1 年後には、プールに入れるまで皮膚状態と日常生活が変化しました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。